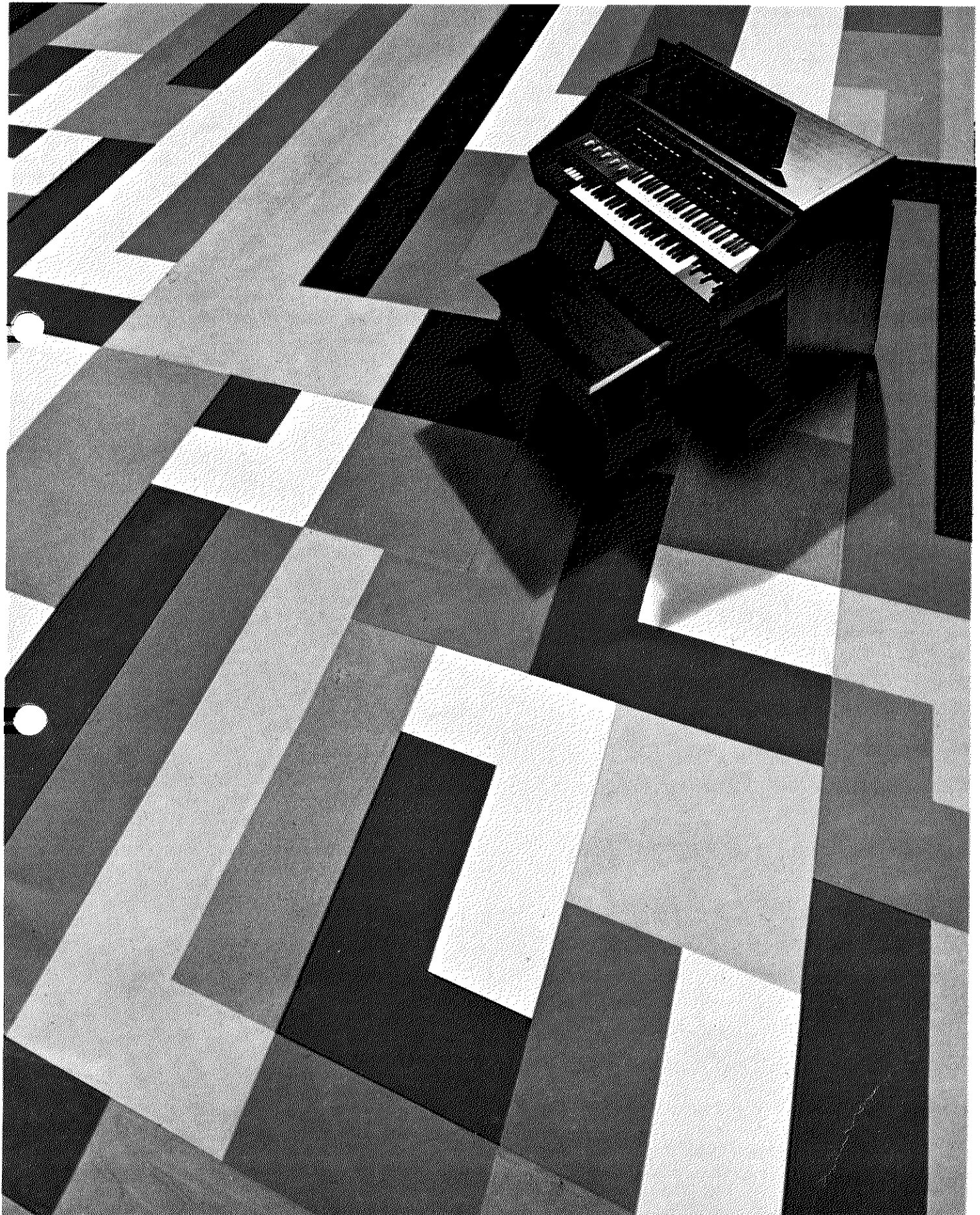


ヤマハエレクトーンE-2の手引



ヤマハエレクトーンE-2は、これまで広く親しまれて来たE-1を、
いちだんと高度なものにしたデラックスタイプです。

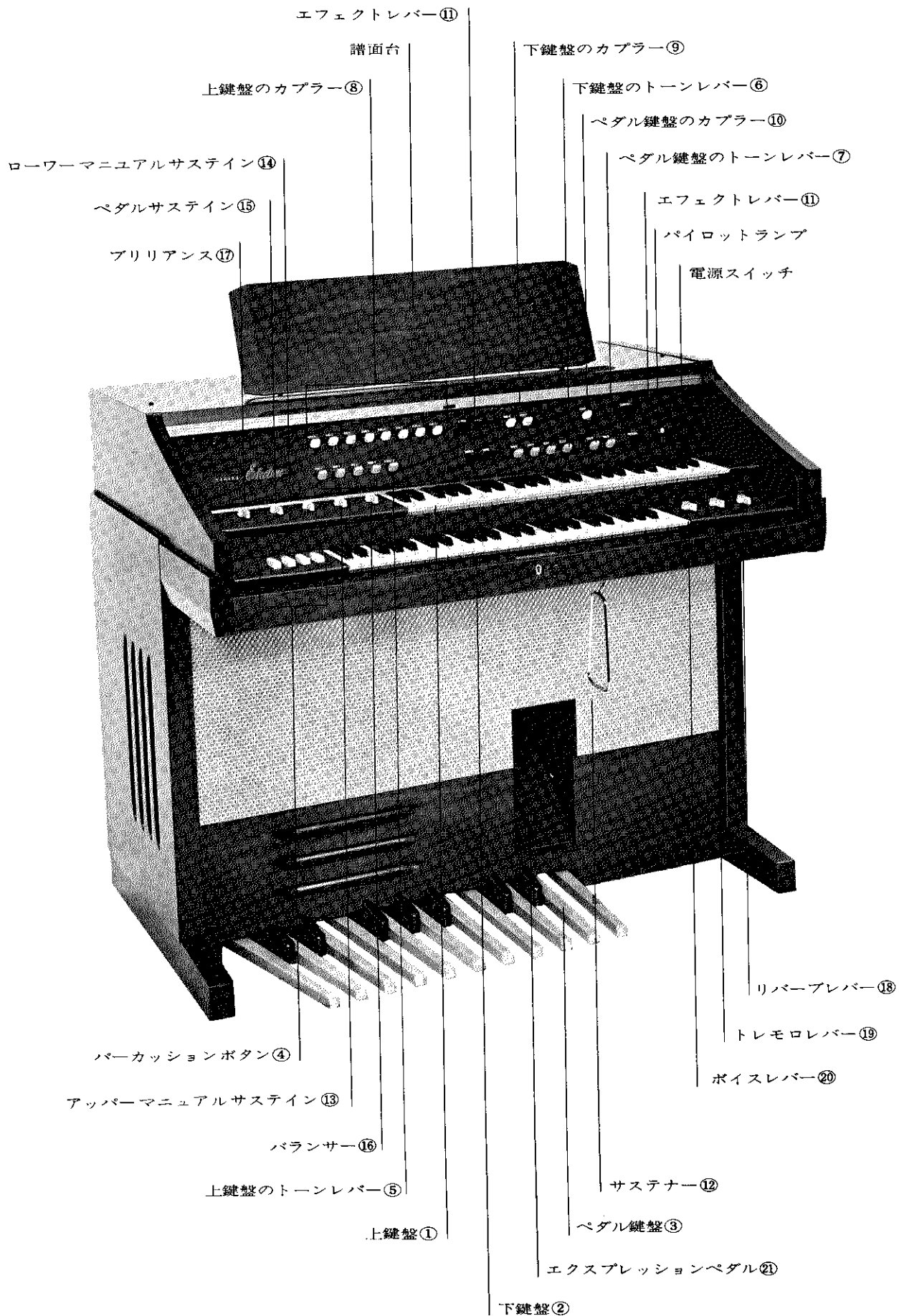
外観には、いっそうの豪華さと風格が備わりました。トレモロ効果やリ
バーブレーション効果も加わり、またパーカッション効果も倍増されて
います。

E-2は、専門家の方々にも十分にご満足いただける、さまざまな機能
を秘めています。あなたの音楽を、思いのままに発展させてください。

目次

エレク トーンE-2の外観と各部の名称.....	2
トーンレバー・エフェクトレバーのご使用法.....	4
トーンレバーについて.....	4
カブラーについて.....	6
エフェクトレバーについて.....	8
エレク トーンE-2の音域表.....	9
演奏はこうして.....	10
タッチについて.....	11
トーンレバーの操作について.....	11
エクスプレッションについて.....	11
イヤホンジャックについて.....	11
エレク トーンE-2練習曲.....	12
ディープ・リバー.....	12
ブンガワン・ソロ.....	14
ヤマハエレク トーンE-2の仕様.....	15

エレクトーンE-2の外観と各部の名称



左の写真について、各部分を説明しましょう。

鍵盤①②③

- ①上鍵盤 49鍵 C₂～C₆ (4 オクターブ)
- ②下鍵盤 49鍵 C₁～C₅ (4 オクターブ)
- ③ペダル鍵盤 18鍵 C₀～C₃ (1 オクターブ半)

以上の3つの鍵盤がメロディとハーモニーとリズムを作ります。

パーカッションボタン④

3つの鍵盤のほかに、下鍵盤の左側にはパーカッションボタンが4個あります。これは、リズムの効果に使用できます。これをたたくと、打楽器の音が出ます。

トーンレバー⑤～⑩

これはエレクトーンの音色をきめるレバーです。白いレバー⑧⑨⑩はカブラーといい、これを使えば1つのキーにいくつもの音を重ねることができます。くわしくは次項をごらんください。

エフェクトレバー⑪

6つの黒いレバーはエレクトーンの音色にさまざまな効果をつけるエフェクトレバーです。次項でさらにくわしくご説明いたします。

サステイン⑫⑬⑭⑮

鍵盤の下側の、ちょうど右ヒザの上の位置に金属のレバーがたたみこまれています。それを引き出してください。これがサステナー⑫です。エレクトーンではふつう、キーを押した瞬間に音が出て、離れた瞬間にプツリと切れてしまいます。ところが実際の楽器、特にピアノでは、ペダルを踏んでいればキーを離れた後までも余韻が残ります。そうした効果を出すのがこのサステナーです。右ヒザで右に押しすと、サステイン効果がつきます。

上、下、ペダル、どの鍵盤にサステインをつけるかきめるのは、上鍵盤の左側にある5つのレバーのうち、中の3つのレバーです。

アッパーサステイン⑬は 上鍵盤に、
ローワーサステイン⑭は 下鍵盤に、
ペダルサステイン⑮は ペダル鍵盤に、
それぞれ効果を与えます。

баланサー⑯

5つ並んだレバーのうち、いちばん右のレバーは баланサーです。これは上鍵盤と下鍵盤の音のバランスをとるためのもので、ふつうはまん中にしておきます。しかし、たとえば上鍵盤がメロディをとり、下鍵盤が伴奏の役を果しているときなどで、下鍵盤の音が強すぎると感じたら、これを右に回してバランスをとります。逆に下鍵盤の音が弱すぎたら左に回します。

ブリリアンス⑰

5つのうちいちばん左のレバーです。左に回すと、音が全体に丸みを帯びてやや暗い感じになり、右に回すと輝やかしく明るい感じになります。

リバーブレバー⑱

下鍵盤の右に3つ並んだレバーのうち、いちばん右のレバーです。リバーブとは残響効果のことで、このレバーを右に回すにつれ、音が広い室内で聴くような残響を持つようになります。

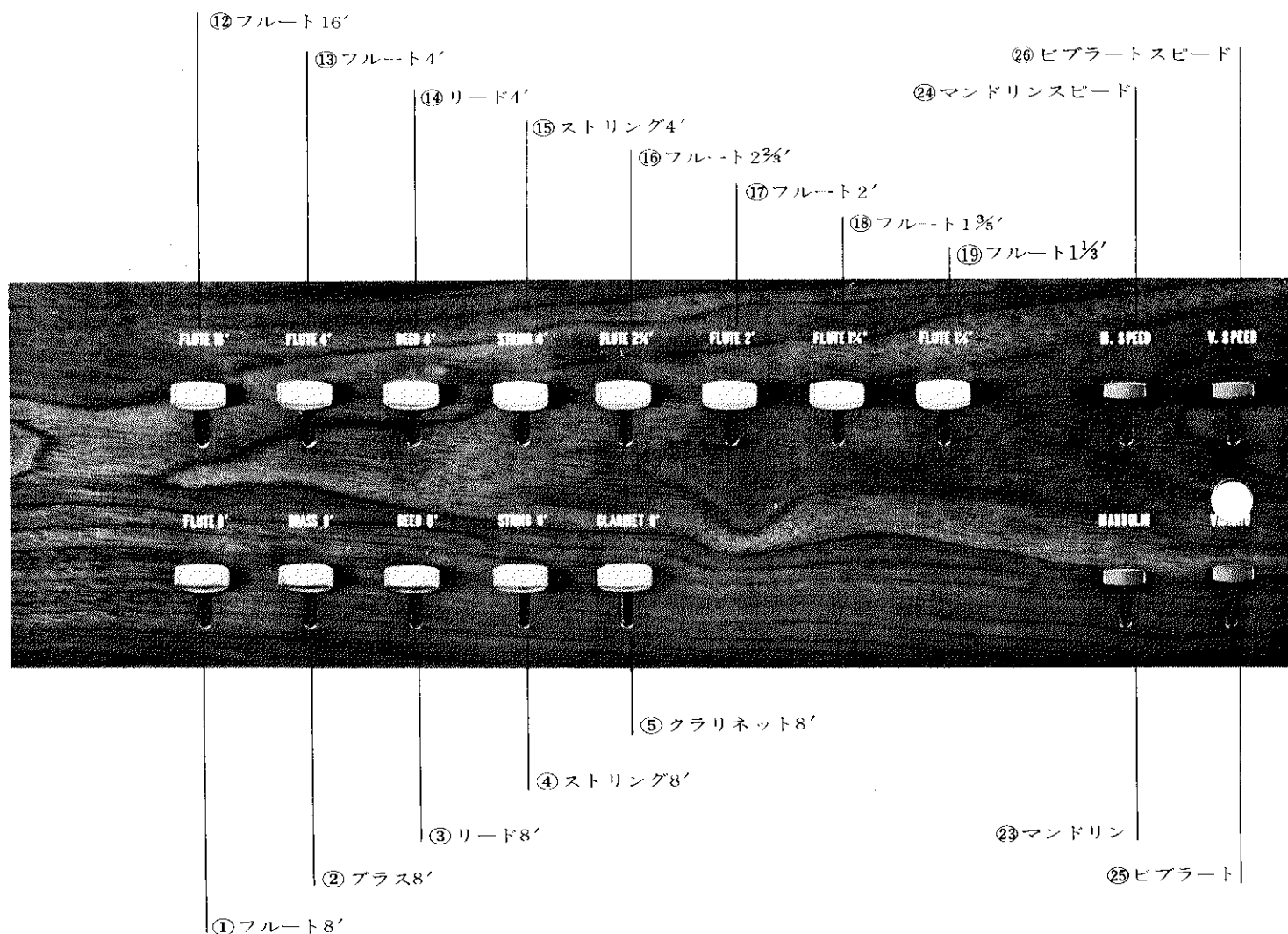
トレモロレバーと ボイスレバー⑲⑳

3つの並んだレバーうちのまん中がトレモロレバー、左がボイスレバーです。トレモロレバーをONにしてみてください。この場合ボイスレバーがMAINになっていれば何の効果もあらわれませんが、ボイスレバーを右に回せば、マンドリン効果とは違った、伸びのあるなめらかな音が得られます。これはスピーカーをトレモロモーターによって回転させているため、そのために美しい広がりのある音が流れ出るのです。

エクスプレッションペダル㉑

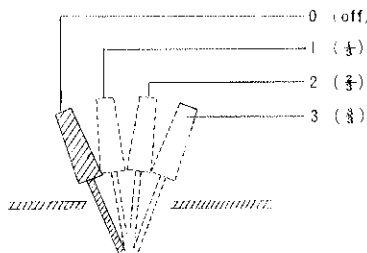
音を大きくしたり小さくしたりして、音楽に表情をつけるのが、エクスプレッションペダルです。これは右足で踏みます。踏みこめば音が大きく、戻せば小さくなります。

トーンレバー・エフェクトレバーのご使用法



トーンレバー(灰色、白色)について

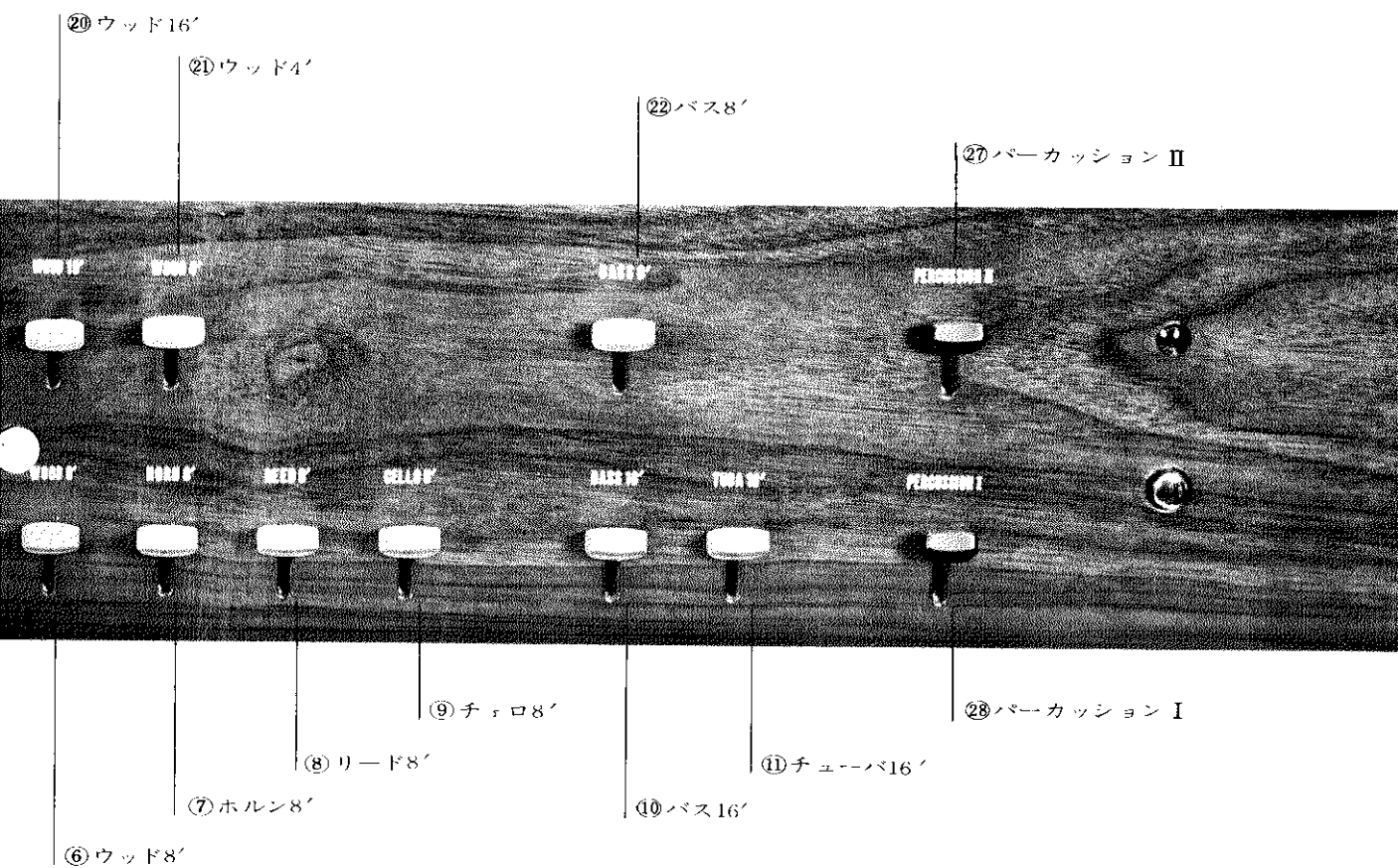
これらのレバーはエレクトーンの色をきめるものですが、一種の音量調節レバーともいえます。指先で押し下げて行くにつれ、連続的に音量がふえてきます。途中で2カ所、ちょっと手ごたえがありますが、これはわかり易いようにクリック・ストップになっているため、次のような4段のメヤスがついています。



- トーンレバーを上げたままの位置を、0.
- 1つ目のクリック・ストップまで下げた位置を、1.
- 2つ目のクリック・ストップまで下げた位置を、2.
- いちばん下まで下げた位置を、3.

白いレバーはカブラーですが、このカブラーがついたため、トーンレバーのそれぞれの音色の名前の次には、8'とか4'とかの数字が書かれています。これはパイプオルガンのパイプの長さからきた呼び名で、8フィート、4フィートというように読みます。

では、下段の灰色のレバーから順にその音色について説明しましょう。



上鍵盤のトーンレバー

フルート 8' いちばん左のレバーです、フルートは本来開管の管楽器ですが、基音が強く、倍音が少ししかありません、従って、単純ですが少し暗い感じの音がします。①

ブラス 8' 金管楽器の音、という意味です。この音は高い倍音までたくさん含んでいるので、より複雑な鋭い感じの音になります。明るい音です。②

リード 8' ダブル・リードの楽器、たとえばオーボエなどの音は、基音よりずっと強い倍音を持っているのが特長です。このトーンレバーの音も、特に倍音が強調されて複雑なものになっています。③

ストリング 8' 弦楽器の音は、ずっと高い倍音までが豊富に含まれています。そのため複雑で豊かな音色になります。このトーンレバーの音も、そうした弦楽器の特長をあらわしています。④

クラリネット 8' 丸みを帯びて、しかも倍音がうまく配合された音です。他のトーンレバーとは少し違った感じの音で、やや複雑で表現力が豊かです。⑤

下鍵盤のトーンレバー

ウッド 8' 木管楽器の音です。フルートと同じような単純な音ですがいくらか倍音が入って明るい感じになっています。⑥

ホルン 8' ホルンの音には、特に強調された倍音はありません。しかし一定の比例で弱まりながらもずっと高い倍音までが含まれているという特長があります。そのためくせのない豊かな音になっています。⑦

リード 8' 低音リードの楽器、コントラバスーンのように、低いけれども倍音が強調された音です。⑧

チェロ 8' ホルンにくらべてやや倍音が強調され、やわらかく自然なチェロのような音色です。⑨

ペダル鍵盤のトーンレバー

バス 16' 基音が強く、倍音が少ない音ですが、非常に低いバスの音域で使われるため、音程がはっきりしません。⑩

チューバ 16' これは倍音を多くして、音色を明るく、音程をとりやすくしたものです。バスの音に加えて使うのがふつうです。⑪

カプラーについて

上段に並んだ白いトーンレバーはカプラーのレバーです。カプラーとはカップルを作るもの、つまり1つの音と別の音を組み合わせる働きをします。これによって、1つの鍵盤を押しただけで、幾つもの鍵を組み合わせさせて押した音が出ます。

まず灰色のトーンレバーのうち、フルート 8' をいっぱいにおろしてみましよう。8' とはパイプオルガンで8フィートのパイプを基準にして作られた音階と同じ、標準的なものです。(エレクトーンにはパイプはありませんが、パイプオルガンの表現法がそのまま使われているのです。)

次に白いトーンレバーのうち、たとえばフルート 16' をいっぱいに入れてみます。これは16フィートのパイプと同じで、音の高さが1オクターブ低くなります。つまり、これでもとの音に、オクターブ低い音が加わったことになります。その音はフルート 8' だけで出した音と、そのオクターブ下の音をいっしょに鳴らした場合と同じ二重音です。

同様にフルート 8' にフルート 4' を加えた場合はもうおわかりでしょう。1オクターブ上の音をいっしょに弾いたのと同じになります。しかし、重音で弾いた場合と違うのは、カプラーでは、レバーをどの程度下げる

かによって、自由に音の強さを加減できることです。従って、ただの重音とは違い、新しい音色が作り出せます。
カプラーのひとつひとつをご説明しましょう。

上鍵盤のカプラー

フルート 16' 1オクターブ下のフルートの音加わります。低い音ですから厚みが出ますが、強すぎたり、また単独で使ったりすると、基音がオクターブ下がったようになってしまいます。その意味で使えば、上鍵盤の音域が下にオクターブひろがったと考えてもいいわけです。このように音域をひろげることもカプラーの使い方のひとつです。これはすべてのカプラーについて言えることです。⑫

フルート 4' フルートの音で、オクターブ上の音が出ます。これを加えると音は生き生きとしてきます。8'を弱くして、あるいはこの音を単独で用いれば、音域を上にもオクターブひろげる使い方でもできます。⑬

リード 4' リードのオクターブ高い音です。これを加えると、音は輝やきを増します。もちろん、リードの音域をオクターブひろげるためにも使えます。⑭

ストリング 4' ストリングのオクターブ上の音です。音色が違うだけで、他の4フィートと同じことです。⑮

フルート 2 $\frac{3}{8}$ ' フルートの音で1オクターブ5度高い音が出ます。⑯

フルート 2' フルートの2オクターブ高い音です。⑰

フルート 1 $\frac{3}{8}$ ' フルートの2オクターブ3度高い音です。⑱

フルート 1 $\frac{1}{2}$ ' フルートの2オクターブ5度上の音です。⑲

フルート 2 $\frac{3}{8}$ ' フルート 2' フルート 1 $\frac{3}{8}$ ' フルート 1 $\frac{1}{2}$ ' の4つは長和音の関係になっています。この4つを同じ音量だけ入れて弾くと、1つの鍵盤を押すだけで高音の和音が出るわけです。メロディを弾くと、平行のままで進行します。これは特殊な使い方でしょう。

また、8'にこれらの高い音をいきなり加えることも、ふつうではありません。8'に4'を加え、そしてより高い音を……と少しずつ、いわばピラミッド型につみ重ねておけば、耳になじみやすい、しかも豪華な音にな

ります。多くのカプラーを使った音は、厚みがあり多様な色彩感にあふれています。

下鍵盤のカプラー

ウッド16' ウッドの音で、オクターブ下の音です。下鍵盤の音に厚みを加え、また音域を低い方にひろげます。⑳

ウッド4' ウッドのオクターブ上の音です。特に低音部でメロディを弾くときなど、この音を加えると音がはっきりします。もちろん下鍵盤の音域を上げるためにも使えます。㉑

ペダル鍵盤のカプラー

バス8' バスのオクターブ上の音です。これを加えると、ペダル鍵盤の音は、音程が聴きとりやすくなり、ペダル鍵盤でメロディを演奏することも可能になります。

さて、これらのカプラーは、フルートとかウッドとかの名前にあまりとらわれずに使ってください。プラス8'にリード4'を、フルート2'を加えるといった使い方ができて、その組み合わせは、上、下、ペダルのそれぞれの範囲で自由に選べます。上鍵盤のトーンレバーなど、ちょっと数え切れないほどの組み合わせ方があるわけですが、実例は、後の練習曲でごらんください。

エフェクトレバーについて

ビブラート パネルのまん中に4つならんだ黒いレバーのうちの右下のレバーです。このレバーを入れるとビブラート効果が得られ、音がいきいきとうるおいをおびてきます。ビブラートの深さはクリックストップで調節できます。㉒

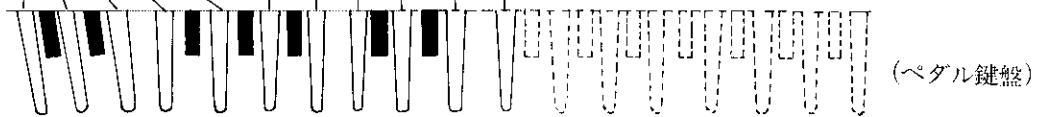
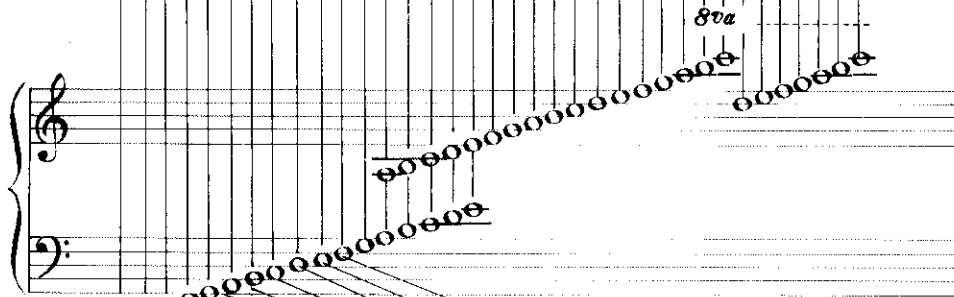
ビブラート・スピード 右上の黒いレバーはビブラートの速さを調節するレバーです。ビブラートレバーといっしょに使ってください。㉓

マンドリン 左下の黒いレバーです。このレバーを入れると上鍵盤の音がこまかく断続するようになり、マンドリンに似た効果が得られます。㉔

マンドリン・スピード 左上の黒いレバーは、マンドリン効果の速さを調節するレバーです。このレバーもマンドリン効果といっしょに使ってください。㉕

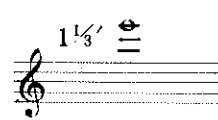
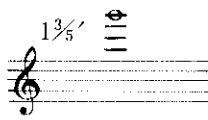
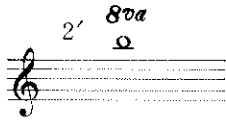
ヤマハエレクトーン E-2の音域表

白いトーンレバーを使った音域



(実音は記譜より1オクターブ下の音) 8'のトーンレバーを使った音域

※最高音は5点B(7902サイクル) までです。従って記譜の限度は下記のようになります。



演奏はこうして……

楽譜について

エレクトーンの楽譜は3段に書かれています。この場合、特に指定のないかぎり、いちばん上段が上鍵盤、2段目が下鍵盤、いちばん下がペダル鍵盤のための譜になっていて、それぞれ、右手、左手、左足で弾きます。ふつう、上鍵盤は高音記号、下鍵盤とペダル鍵盤は低音記号で書きます。

例

上鍵盤 (右手)	
下鍵盤 (左手)	
ペダル鍵盤 (左手)	

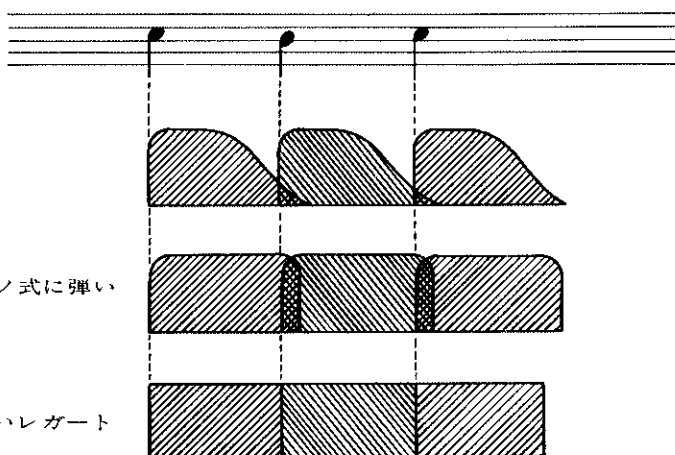
ペダル鍵盤の音は、実音より1オクターブ高く記譜されています。(コントラバスの場合と同じです。) 練習曲の音符には、ピアノと同様に運指のための五指の番号がついています。大体はピアノの譜に準じて読めばいいのですが、エレクトーンの譜には、特に音色の変化を指定する記号があることにご注意ください。この記号に従ってトーンレバーを入れます。詳細については、別冊の「エレクトーンのための記譜法」をご参照ください。

タッチについて

いままでピアノを弾いていた人が、エレクトーンを弾いてみて、いちばんとまどうのはタッチの違いでしょう。特に、レガートとスタカートは大変違ってきますから、ご注意ください。

レガート

ピアノの場合、キーをたたくと、そのキーが下がり切ったあたりで、ハンマーが弦をたたきます。つまり弾く動作よりある程度遅れて音が出ているのです。ところがエレクトーンでは、キーをほんの少し押し下げただけで音が出ます。そしてキーを離す瞬間まで同じ強さの音が続いています。ですから、エレクトーンをピアノ式のレガートで弾くと、音の前後が重なって汚ない音になります。(図をごらんください。) ピアノとは違ったタッチで、正しいレガートが弾けるように練習してください。



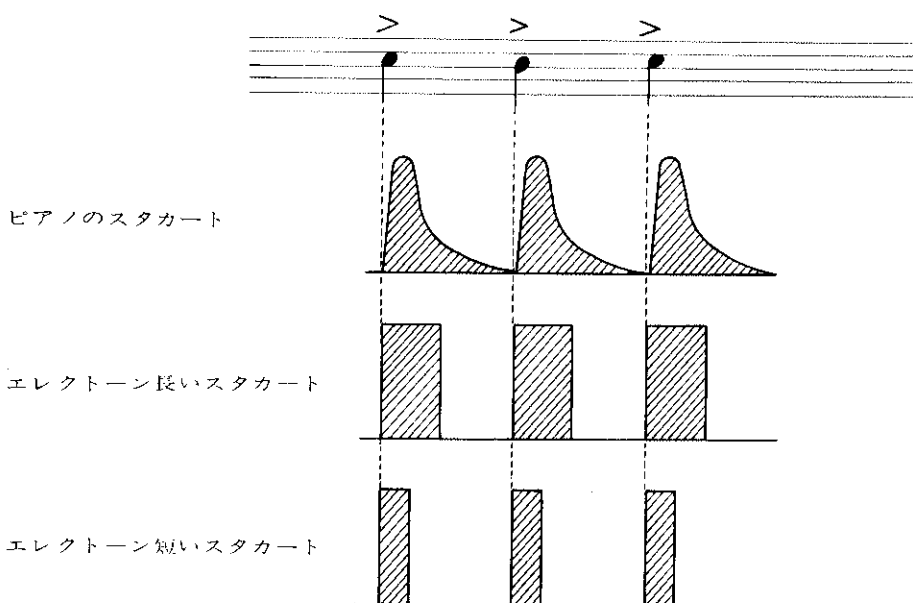
ピアノのレガート

エレクトーンをピアノ式に弾いた場合のレガート

エレクトーンの正しいレガート

スタカート

スタカートもまた、ピアノとは大変違います。ピアノでは、ふつうキーを打ち逃げするので、音は一瞬だけで、あとは固有の減衰をします。ところがエレクトーンでは、キーを押す瞬間によって音の長さが変わります。つまり、いろいろな程度のスタカートが使われるのです。



トーンレバーの操作について

エレクトーンでは、演奏を始める前にトーンレバーを入れておかねばなりません。これをどう組み合わせて入れるか、つまり音色をどうきめるかは、ふつう楽譜の最初に指定されています。しかし、曲の途中でもトーンレバーを入れ換えれば、いっそう変化がついて面白くなります。曲の途中での操作に左右どちらの手を使うかは、編曲によって違って来ますが、メロディが途切れないように、そのときの都合のよい方の手で入れ換えればよいのです。

エレクトーンのトーンレバーは、多く加えれば加えるほど音量が増します。いろいろな音色を加えて音色を作るという感じで操作してください。トーンレバーの入れ方によっては、上鍵盤と下鍵盤の音量がアンバランスになることがあります。そのときはバランサーを使って調節します。

エクスプレッションについて

音の強弱、つまり音楽の表情は、右足のエクスプレッションペダルによってつけます。クレセンドのときはごくゆっくり、静かに踏みこみます。ディミネンドのときは、ゆっくりともどします。しかしこのペダルを大きさに使いすぎはいけません。エクスプレッションは、音楽の自然な流れにそって、わざとらしくない程度につけてください。

イヤホンジャックについて

鍵盤の右手下側には、練習ためのイヤホンのジャックがついています。これにイヤホンを接続すれば、音は外に出なくなります。夜でも、ひとり静かに、心ゆくまで練習ができます。

ヤマハエレクトーンE-2 仕様

鍵盤	上鍵盤 49鍵 4 オクターブ (C ₂ ~C ₆) 下鍵盤 49鍵 4 オクターブ (C ₁ ~C ₅) ペダル鍵盤 18鍵 1 オクターブ半 (C ₀ ~C ₃) パーカッションボタン 4 鍵
トーンレバー	上鍵盤 フルート16' フルート4' リード4' ストリング4' フルート2 $\frac{2}{3}$ ' フルート2' フルート1 $\frac{3}{4}$ ' フルート8' プラス8' リード8' ストリング8' クラリネット8' 下鍵盤 ウッド16' ウッド4' ウッド8' ホルン8' リード8' チェロ8' ペダル鍵盤 バス8' バス16' チューバ16'
エフェクトレバー	パネル パーカッションⅠ パーカッションⅡ ビブラート ビブラートスピード マンドリン マンドリンスピード 拍子木 バランス アッパー・マニュアル・サステイン ローワー・マニュアル・サステイン ペダルサステイン プリリアンス リバーブ ボイス (メイン・トレモロ) トレモロ (ON-OFF)
その他	サステナー エクスプレッションペダル 電源スイッチ パイロットランプ イヤホーンジャック
トランジスター	3684i
ダイオード	2004i
メインアンプ	6AU6×1 6AQ8×2 6CA7×2 5AR4×1 出力 25W (トーンキャビネット端子付)
スピーカー	30cm×1 (本体) 20cm×2 (本体1 トレモロ1) 6cm×1 (本体)
トレモロ装置	モーター 2 極誘導電動機 30W
消費電力	100V A・C 50~60% 146W
外装	本体 ウォルナットポリエステル塗装 間口120cm 奥行82cm 高さ106.5cm (譜面台を立てたとき125.8cm) 重量140kg 椅子 ウォルナット仕上 間口80cm 奥行38cm 高さ58cm



日本楽器製造株式会社